

平成30年度 病害虫防除技術情報 第10号

平成31年3月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

麦類の防除対策について

本年度は高温傾向で推移しており、今後の気象予報も高温多雨傾向であることから平年よりも病害虫の発生が早く、多発する可能性があります。出穂期も平年よりも早くなる可能性が高いため、防除時期を逃さず適期防除を心がけましょう。

麦類の生育状況

- (1) 水田農業グループが平成31年2月12日に発表した平成30年播き麦類作況判定試験結果では、1月中旬以降、高温・多照・少雨で推移したことから、いずれの品種も平年より極端に生育が早く旺盛であるとされています。

標準播（平成30年11月20日播種。数字は平年比（%））

トヨノカゼ	草丈:147	茎数:213	葉齢:+1.2L
ニシノホシ	草丈:160	茎数:178	葉齢:+1.2L
チクゴイズミ	草丈:162	茎数:184	葉齢:+1.1L
ニシノカオリ	草丈:152	茎数:181	葉齢:+1.2L

今後の気象情報

- (1) 2月21日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」は以下のとおりとなっており、高温多雨で推移する可能性が高くなっています。

気温：平年より高い確率70%、平年並の確率20%、平年より低い確率10%

降水量：平年より多い確率40%、平年並の確率40%、平年より少ない確率20%

大麦網斑病の発生状況

- (1) 県北部の一部ほ場では大麦網斑病の発生が既に認められています。発生が平年よりも早いことから今後多発する恐れがあります。
- (2) 防除適期は出穂期となります。

麦類赤かび病の発生状況

- (1) 小麦と裸麦では開花最盛期から10日間程度の間が最も感染しやすく、二条大麦では葯が出始める時期に感染しやすいため、この間に降雨が続き気温が高いと多発しやすくなります。今後の気象状況に注意してください。
- (2) 防除適期は別紙「防除上注意すべき事項」参照してください。

防除上注意すべき事項

- (1) 赤かび病の防除適期の目安は、出穂期から予測することが可能です。農林水産研究指導センター水田農業グループによれば、宇佐市における平年出穂期は下表のとおりです。ただし今年度は出穂の早まる可能性が高いため十分に注意してください。

表1. 麦類の出穂期

播種時期	麦種	品種	平年出穂期
標準	裸麦	トヨノカゼ	4月7日
	二条大麦	ニシノホシ	4月8日
	小麦	チクゴイズミ	4月12日
		ニシノカオリ	4月14日
晩播	二条大麦	ニシノホシ	4月16日
	小麦	チクゴイズミ	4月20日

注) 出穂期は今後の気象条件等により変動する場合があります。

最新の情報は農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループHPを参照すること。

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/>

小麦の出穂期に関しては農研機構・西日本農業研究センターが、アメダスデータを活用した生育予測システムをHP上で公表しています。

リアルタイムアメダスを用いた麦の発育ステージ予測

http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/server_index.html

- (2) 防除適期の期間が短いので、雨が降り続く場合は合間を見て散布してください。
 (3) 見込みどおりの時期に出穂期を迎えた場合、予想される防除時期は下表のようになります。ただし、品種、地域、播種時期などで出穂期が異なるので、圃場に合わせた防除適期を計算し、その期間に防除を行ってください。

表2. 第1回目の防除適期(平年出穂期通りに出穂した場合)

播種時期	麦種	品種	防除時期の目安(気温が平年並の場合)
標準	裸麦	トヨノカゼ	出穂期 5～7日後
	二条大麦	ニシノホシ	出穂期12～14日後
	小麦	チクゴイズミ	出穂期 7～10日後
		ニシノカオリ	
晩播	二条大麦	ニシノホシ	出穂期12～14日後
	小麦	チクゴイズミ	出穂期 7～10日後

表3. 第2回目の防除適期

播種時期	麦種	品種	防除時期の目安(気温が平年並の場合)
標準	裸麦	トヨノカゼ	第1回防除 7～10日後
	二条大麦	ニシノホシ	第1回防除 7日後
	小麦	チクゴイズミ	第1回防除 7～10日後
		ニシノカオリ	第1回防除 7～10日後
晩播	二条大麦	ニシノホシ	第1回防除 7日後
	小麦	チクゴイズミ	第1回防除 7～10日後

- (4) 2回目の防除適期を過ぎていても、感染しやすい条件に該当する圃場では1回目防除の20日後くらいまでに2回目防除を行えば防除効果が期待できます。ただし、薬剤の収穫前使用日数に注意が必要です。
- (5) 主要薬剤の麦種ごとの登録は以下を参照にしてください。薬剤の収穫前使用日数には十分注意してください。

表4. 麦赤かび病対象薬剤
【散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル トップジンM水和剤	1000～1500倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	シルバキュアフロアブル	2000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンM水和剤	1000～1500倍	60～150L/10a	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
麦類 (大麦を除く)	ワークアップフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	シルバキュアフロアブル	2000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	ワークアップフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内

【無人ヘリコプターによる散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
麦類 (大麦を除く)	ワークアップフロアブル	10～16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	ワークアップフロアブル	10～16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内